

薬剤科 DI ニュース

骨粗鬆症治療薬

骨粗鬆症とは

骨は破骨細胞による吸収(骨吸収:骨が溶ける)と、骨芽細胞による形成(骨形成:骨を作る)を繰り返すことで、常に新鮮な状態を維持しています。これを「骨代謝回転」といいます。骨代謝回転における吸収と形成のバランスが崩れ、骨量が減少した状態が骨粗鬆症です。この骨粗鬆症の治療に使われている薬は、①骨吸収を抑える薬、②骨形成を促進する薬の二つに大別できます。ほとんどの薬は今後の骨量減少を最小限に留める効果を期待して使用します。しかし、最近開発が進んだビスホスフォネートなら、「骨量を増加させ、腰痛の改善や骨折の明らかな減少」が証明されています。骨粗鬆症治療薬を二つに分けて下記に説明します。

① 骨吸収を抑える薬

1) カルシトニン(エルシトニン注 20S)

骨量の減少抑え、背中や腰の痛みを和らげます。注射薬のみです。通常一週間に一回の筋肉注射による治療が行われます。

2) ビスホスフォネート(ダイドロネル錠 200、ボナロン錠 5mg)

骨量の減少を強力に抑え、はっきりと骨量を増加させることができます。骨折を防ぐ効果も認められ、現在ある薬の中で最も強力です。ビタミン D3 またはビタミン K2 と併用すると骨折予防効果が高まると報告されています。治療により年間 3~5%の骨量増加、骨折発生率は 1/2 程度に改善されると報告されています。但し、この薬剤は吸収が悪いため空腹時(起床時)に飲まないで効果がありませんので注意が必要です。

3) カルシウム剤(乳酸カルシウム)

骨吸収抑制作用を示すが、閉経後の骨粗鬆症に単独で用いても効果は期待できないと言われています。他剤に併用されるか、食事からカルシウムが充分とれない場合に服用します。

② 骨形成を促進する薬

1) ビタミン K2(グラケーカプセル 15mg)

骨量の増加は期待できませんが、骨の形成時の骨質の改善(強い骨を作る)に役立ち、骨折率を低下させると報告されています。最近の報告ではビタミン D3 と併用すると治療効果が減少するとの報告があるので注意する必要があります。食品としてはビタミン K2 を多く含む納豆を食べると効果があるようです。

2) ビタミン D3(アルファロールカプセル 1 μ g、ロカルトロールカプセル 0.25)

腸からカルシウムの吸収と骨の形成を助けます。骨量を積極的に増やす効果はありませんが、骨量の減少を予防し、治療しない場合に比べて骨折率は 1/2 に低下することが報告されています。注意すべきこととして、ビタミン D3 とビタミン K2 の併用は、不適切とされています。それは骨吸収が亢進し、骨密度はかえって減少し、骨折も増加するためです。しかし、なぜそうなるかはまだわかっていません。

